

令和7年度 曳馬小学校評価

I 令和7年度の取組

【学習推進】			【安心安全】		
①資質・能力を確実に身に付ける授業改善 ・資質・能力を育成する単元づくり ・見方・考え方を働かせる深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び	②自立し生活を豊かにしていく生活科 ・「知りたい、やってみたい」を実現する活動や体験 ・他教科や上下の発達段階の学びとの滑らかな接続 ②探究的に取り組む よろこびタイム ・問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究学習の確実な実施 ・各教科で身に付けた資質・能力との関連付け	③子供主体の特別活動 ・自発的、自治的で創意工夫あふれる活動や行事の充実 ・学級、学年を超えてつながるよりよい人間関係づくり	①みんなが心地よい学校生活 ・思いやり・規範意識の涵養と自尊感情の高揚 ・多様性、包摂性を大切にす学級風土の醸成 ・ICTリテラシーの向上 ・あいさつの習慣化	②自他を大事にする健康・安全指導 ・基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）の定着 ・命・心・体を守る知恵と術の習得 ・運動する楽しさを味わえる活動・環境の工夫	③温かで細やかな個別支援 ・児童の困り感をチームで解決する発達支援、登校支援 ・いじめ防止基本方針に基づく適切な対策・対応

【連携・協働】

①地域・家庭との情報共有 ・保護者と共に考える教育相談 ・情報収集と情報活用 ・ICT、地域回覧等によるタイムリーな情報発信	②コミュニティ・スクールの充実 ・目指す子供像、児童の実態の共有 ・地域・家庭的・物的教育資源の積極的な活用 ・学校支援コーディネーター、曳馬協働センターとの連携・協働
---	---

II 自己評価	※「評価」は「そう思う」「ややそう思う」の割合 ※「比較」は昨年度との比較	児童の評価	比較	保護者の評価	評価不能	比較	教職員の評価	比較	自己評価の分析・考察
①探究・創造	進んで「知りたい」「やってみたい」をかなえることができる	88.6 %	1.5	83.3 %	4.3	2.1	88.8 %	10.7	<p>【アンケートの結果より】</p> <p>・児童、教職員の評価は、ほぼ全ての項目で数値が上がった。安定した学校運営の結果と捉えらえる。一方、保護者の評価は、反対にほぼ全ての項目で下がった。これは、今年度より「評価不能」の選択肢を増やした影響が大きく出たと考える。</p> <p>・全体で見ると、生活の項目の数値が他と比べて高く、なかでも「規範意識」の数値が高い。昨年度、課題であった「あいさつ・言葉づかい」については改善が見られた。</p> <p>・全体で見ると、学習の項目の数値が他と比べて低い。ただし、昨年度よりも数値自体は上がっているものが多く、「のびやかな学び」をテーマに資質・能力の育成に取り組んできた成果とも言える。</p> <p>【全国学力調査の結果より】</p> <p>・国語科・算数科・理科の3教科それぞれ全国平均を上回った。各教科「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも数値が高かった。</p> <p>・質問紙では、6割以上の項目で全国平均を上回る肯定的な回答が得られた。特に、「学習習慣」「自己有用感」「ICTを活用した学習状況」で肯定的な意見の割合が高かった。</p> <p>【いじめ対応】</p> <p>・「いじめアンケート」を年3回実施し、いじめに対して積極的な認知をしている。生徒指導主任を中心に、早期発見、早期対応を心掛け、子供たちや保護者との共有ができています。</p>
②自尊・個性伸長	自分のよさがわかり、自分を高めることができる	90.8 %	5.8	83.3 %	3.3	-7.6	92.6 %	2.0	
③協働・共生	友達や周りの人と力を合わせて活動することができる	90.3 %	2.7	86.8 %	4.3	-2.8	100.0 %	6.2	
④目標選択	目標を立て、進むべきプロセスを自ら選ぶことができる	87.0 %	-0.1	77.1 %	2.9	-1.0	80.7 %	18.2	
⑤学習	「勉強してよかった」「勉強はおもしろい」と思っている	86.0 %	6.7	62.4 %	4.8	-4.1	85.2 %	7.1	
⑥学習	自分の考えや思いをもち、それを表そう、伝えようとしている	85.4 %	0.6	81.2 %	0.8	-1.4	85.2 %	7.1	
⑦学習	学んだことを生活で生かしたり、さらに深く自分で調べたりしている	85.7 %	7.2	66.5 %	2.5	-3.1	81.5 %	15.9	
⑧学習	ルールやマナーを守り、タブレット型端末を学習に生かしている	97.3 %	4.3	79.3 %	5.8	-5.2	81.5 %	6.5	
⑨生活	学校では楽しく安心して生活している	94.2 %	6.6	92.1 %	2.3	-1.5	100.0 %	0.0	
⑩生活	学校の決まりや大人や友達との約束を守り、マナーよく生活している	96.5 %	4.1	88.2 %	2.1	-3.9	92.6 %	20.7	
⑪生活	気持ちのよいあいさつや返事、言葉づかいができています	92.3 %	4.5	77.1 %	1.9	-0.7	77.8 %	21.5	
⑫生活	早寝・早起き・食事など自分の健康に気をつけて生活している	88.0 %	4.5	78.1 %	0.4	-1.0	96.3 %	11.9	
⑬生活	自分から進んで運動や体力づくりに取り組んでいる	87.4 %	5.6	62.4 %	0.6	-4.1	88.9 %	10.8	
⑭教職員（姿勢）	先生方は子供たちのよさや頑張りを大切にしている	95.9 %	2.3	91.5 %	3.3	-3.9	100.0 %	0.0	
⑮教職員（姿勢）	先生方に安心して相談できる	85.7 %	3.3	89.0 %	3.7	-1.9			
⑯連携	学校と家庭は必要な情報が共有できている			80.0 %	3.3	-3.2	100.0 %	0.0	

ピンク色→数値の高いもの（5つ） 水色→数値の低いもの（3つ）

III 今後の改善方針

◇教職員全体で「学校教育目標」を共有するとともに、「曳馬っ子 4つのめあて」を教育活動全般をとおして意識していく。
◇授業と実生活との接点を増やしたり、「よろこびタイム」「生活科」を活かして探究・創造的な学びをさらに進めたりする。
◇タブレット型端末を含めた子供たちの学習状況を保護者にも周知できるように工夫をする。
◇「自律」をテーマに、今後も子供たちが学習面、生活面ともに自分で考えて行動できるように支援をしていく。
◇「いじめアンケート」や「面談」を定期的に行い、今後もいじめの早期発見、早期対応に努める。その際は、児童、保護者、教職員、地域との連絡を密にして、組織としての対応をさらに意識していく。
◇学校ブログの閲覧数が増えるように、学年だよりや行事後に、さくら連絡網で呼び掛けをするなどし、周知を図る。

IV 学校運営協議会による学校関係者評価

◇タブレット端末の持ち帰り頻度は学年により差があるが、学習内容が子供のみで完結し、保護者が把握しにくい実態がある。今後は「何を学んでいるか」を家庭と共有する工夫が求められる。
◇良好な指標の影に隠れがちな「支援を必要とする子供」を救い上げる視点ももつべきである。特に親子間のコミュニケーション不足に対し、地域やPTAが連携して改善に取り組む必要がある。
◇いじめ対応を含め、健全な学校運営がなされている。子供の安全を守る視点から、学校と地域の情報共有をさらに密にし、防犯・安全体制を強固にしていくべきである。
◇学校ブログ等による発信強化は評価できるが、閲覧数は一部に留まっている。学校経営方針や活動内容が全世帯に確実に行き渡るよう、より効果的な周知方法を検討されたい。

